

# J-クレジット制度 排出削減プロジェクト・ 森林管理プロジェクト 妥当性確認報告書

プロジェクトの名称：

物流倉庫における照明器具取替えによる省エネルギー事業

妥当性確認 機関名	株式会社日本スマートエナジー認証機構
--------------	--------------------

発行日 2013 年 10 月 11 日

## 1 妥当性確認機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたプロジェクト計画書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	株式会社日本スマートエネルギー認証機構
プロジェクトの関係者との利害 抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	弊社および審査チームメンバーについて、本プロジェクトの実施者、関係者との重要な利害関係について調査を行ったが、利害関係がないことを確認した。

## 2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	福玉精穀倉庫株式会社
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	—
低炭素社会実行計画への参加実態 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 該当なし
温対法特定排出者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 該当なし
省エネ法報告対象者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 該当なし

### 3 妥当性確認結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

妥当性確認実施期間	<input type="checkbox"/> プロジェクトの実施前 <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの実施後		
プロジェクト名	物流倉庫における照明器具取替えによる省エネルギー事業		
認証予定期間 ※実施要綱に定められた認証対象期間内に設定されていることを確認して記載すること。	2013年 10月 11日 ～ 2021年 3月 31日		
適用方法論	方法論番号	EN-S-006 Ver. 1.0	
	方法論名称	照明設備の導入	
想定排出削減量・想定吸収量	認証予定期間の合計値	518 t-CO <sub>2</sub>	
プロジェクト実施者と合意した妥当性確認の前提	妥当性確認の基準 ※適用した制度文書類のバージョンを記載すること	文書名：実施要綱 文書名：実施規程（プロジェクト実施者向け） 文書名：実施規程（審査機関向け） 文書名：モニタリング・算定規程	Ver. 1.0 Ver. 1.0 Ver. 1.0 Ver. 1.1
	目的 ※プロジェクトの実施によって、プロジェクト計画書に記載された削減量・吸収量が実際に生じる見込みに対する評価を行うことも目的に含めて記載すること	プロジェクト実施者が作成した J-クレジット制度（以下「本制度」という。）に基づくプロジェクト計画書を対象に、J-クレジット制度の各種実施規程に従い、計画内容が適正に記載され、実態に合っていること、及び削減量の算定結果が正確であることについて、独立の立場から結論を表明すること。	

	<p>範囲 ※妥当性確認の範囲がプロジェクト計画書の範囲であることを記載すること</p>	<p>本プロジェクトの計画書に記載された、照明設備の導入による CO2 排出削減事業計画を妥当性確認の範囲とする。</p>
	<p>保証水準 ※妥当性確認の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること</p>	<p>合理的保証</p>
<p>妥当性確認手続 ※現地審査の実施有無について記載すること ※また、実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること</p>		<p>■現地審査を実施した（2013年10月7日に訪問） □サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） □現地審査を実施していない</p> <p>現地審査前にプロジェクト計画書および本事業の概要資料を入手し、リスク評価を行った。リスク評価によって抽出された諸点を踏まえた上で、現地審査の際に関連資料の閲覧、プロジェクト実施者へのヒアリング、および現地目視などによって得た合理的な根拠に基づき、意見形成を行った。</p>
<p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4における結果を総括し、排出削減量又は吸収量に影響を与える可能性のある、主な指摘事項について記載すること</p>		<p>活動量について、修正前は福玉精穀倉庫株式会社の就業時間を採用していたが、テナントの入居状況によって点灯・消灯時間や稼働日に差異が生じることが現地審査によって判明した。よって正確性を期すために実態に即した稼働日を営業カレンダーによって集計するよう指摘を行い、修正が正しく行われていることを確認した。</p>
<p>妥当性確認結果</p>	<p>確認結果</p>	<p>■無限定適正      □不適正      □意見不表明</p>
	<p>意見・結論 ※4における結果を総括し、確認結果における意見の理由を記載すること</p>	<p>当社は、プロジェクト実施者が作成したプロジェクト計画書「物流倉庫における照明器具取替えによる省エネルギー事業」に記載された、照明設備の高効率化による温室効果ガス排出量削減情報は、誤りの合計値が重要性の基準値未満であって、J-クレジット制度における温室効果ガス排出削減量の算定及び報告の基準である実施要綱および各種実施規程に基づいて作成されており、全ての重要な点に関して、適正であると認める。</p>